



小林一三物語

みんなの笑顔のために働いた アイデアマン

あ ら す じ

駅と直結したデパートやショッピングセンター、ビジネスホテル、住宅ローン。そして宝塚歌劇団、映画会社の東宝など、これらをすべて作り出したのが小林一三です。

学生時代から小説を書くのが好きで、新聞に連載されるほどの腕を持ちながらも、銀行に就職。30代で鉄道事業をまかされますが、沿線は山や畑ばかりでピンチに立たされます。「人が住んでいないなら、町を作ればいい」と逆転の発想で、宅地開発と鉄道事業を同時進行し、大成功をおさめます。その後も、「ピンチこそチャンス」と、さまざまな窮地を乗り越えてきましたが、その根底にあるのは、「皆が喜ぶことをしたい!」「皆の笑顔が見たい」という優しい気持ちでした。

一三が生み出したアイディアは日本社会に定着し、これからも優しい気持ちを未来へ伝えていきます。

DVDをより深く子どもたちが理解し、考える力をつけるために

視聴後に、簡単な声掛けや感想を書く事で、子どもたちの理解はより一層深まり、考える力が身に付きます。

- (1) 一三はどんな子どもだったかな？
- (2) 一三と、キミがにているところ、ちがっているところを考えてみよう。
- (3) 「ピンチはチャンス」ってどんなことだろう？
- (4) 一三は「みんながよろこぶこと」がうれしかった。キミはどうか？
- (5) キミは、将来どんなことをやりたい？
そして、それをやり遂げるためには何が大切だと思う？
- (6) 「私はこんな風に思った」「私はここが面白かった」など、お友達と色々な話をしてみましょう。
また、おうちの人にもDVDで見たことを教えてあげましょう。

